

公表	保育所等訪問支援事業所における自己評価総括表
----	------------------------

○事業所名	保育所等訪問支援 フリースタイル難波元町		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 15日		～ 令和8年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21	(回答者数) 17
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 15日		～ 令和8年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○訪問先施設評価実施期間	令和8年 1月 15日		～ 令和8年 2月 28日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 5日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童発達支援、放課後デイサービスの利用者児童に対する放 生所等訪問支援の依頼が多い ・利点 デイの様子の詳細を共有でき、学校の様子や学習面等の課題 点を放課後デイサービス、児童発達支援に共有し、支援に活か すことができる点	①学校での様子を観察、先生との面談時間も確保することに よって施設以外での利用者様の一面をみることができ、長所 を伸ばす、短所を改善する支援に有効活用している ②放課後デイサービス、児童発達支援事業との会議や連携を密 に行っている	学校の先生や保育園等の先生を施設に呼んで活動の様子の 見学をしてもらい支援方法等を実際に見ていただく
2	不登校、不登園児童の登校支援【登校に繋げる為の生活リズム 改善や起床サポートを行う】、学力や体力、対人コミュニケー ションスキル等の詳細な情報を共有し、関わるのが少ない生 徒の日常活動や各々の能力を先生たちが知ることができる	①こども園や学校等に訪問する支援だけではなく、朝の起床サ ポートや登校のお見送りといったサービス提供とは縁のない支 援も臨機応変に行っている ②放課後デイサービスや児童発達支援事業所と密に連携を図り 現状の学力や体力、対人スキル等の長所、短所等を聞き取り、 サービス記録を用紙で持参し学校の先生へ報告している	①訪問支援以外の日でも学校の登校が遠ざかればプリントを 一緒にもらいに行くといったサービス提供外の別途支援も取 り入れていき登校に繋がれたらと考えている ②学校や保育園の先生達を施設に招いて学校等に行っていな い児童と関わる機会を作り信頼関係の構築のサポートをして いく
3	児童福祉実務経験が5年以上の支援員の配置【児童福祉の知識 がある】	①保育所等訪問支援の制度が知らない訪問先には制度の説明 を詳細に行い、協力体制を構築している ②教育現場では習わないジョハリの窓や絵カードといった福 祉現場の支援の方法をいろんな角度から助言を行ってきた	①教育現場では実装されない教材の提案、提供を行っていき たいと考えている ②更なる知識を身につけるために訪問支援員のスキルアップ を目指し専門性のある研修への参加等を行ってきたい

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問支援員の配置が1名の為、時間の融通が利かない	①放課後デイサービス、児童発達支援に対して手厚い配置を 行っている為 ②求人は出しているが人材の確保が現状止まっている為	①会社として継続して採用を行っていき人材の確保 ②同法人の放課後デイサービス、児童発達支援の配置基準 を考慮しながらサービス提供時間外にヘルプ出勤できるよう に配置の転換や変更を考案していく
2	児童福祉実務経験者のみで心理学や力学等の専門性の知識に乏 しい	①放課後デイサービス、児童発達支援事業所に専門支援員を 配置しているため ②理学療法士の退職が本年度にあったため	①専門的知識を持っている人材の確保 ②同会社である放課後デイサービス、児童発達支援事業所に 在籍している支援員の専門知識に相談を行っていく ③外部で行われている研修等に参加し、訪問支援員の知識アッ プを目指していく
3	法人内での放課後デイサービス、児童発達支援事業所の利用児 童の依頼案件がほとんどであること【保育所等訪問支援利用の みは一人のみ】	①保育所等訪問支援としての実績不足 ②専門性のある訪問支援員がいない ③保育所等訪問支援が世間で浸透されていない	①継続して実績を積んで信頼される事業所になる為に訪問支 援に尽力し、学校への貢献度、満足度を高めていく助言等を 行っていく ②上記記載通り人材の確保を会社として力を入れていく ③相談支援事業所に保育所等訪問支援の依頼案件を保護者様に打診して頂く といった行動を起し、障害福祉利用されているご家庭に児童福祉従業員全体 として働きかけられるよう動いていきたい